

## 大学キャリアサービスプログラムにおける インターンシップの現状と開発の方向性 －ニューヨークエリアにおける事例研究－

### Internship Programs: Present Situations and Relationships to Career Development Programs － In case of American Universities in New York －

池 田 るり子  
Ruriko Ikeda

抄 録 米国大学においてキャリアサービスプログラム同様、インターンシッププログラムは、大学経営上からも大きな位置を占め、キャリアサービスプログラムとの連携により、新たな学生確保のための特徴ある取り組みとして大きな役割を担っている現状がある。ニューヨーク市マンハッタン地区の社会人向けプログラムに定評がある3つの私立大学について事例研究を行った結果、就職活動の中核となるインターンシッププログラムは、キャリアサービスプログラムとの連携により、インターンシッププログラム対象範囲を在校生から卒業生及び社会人受講生へと拡大し、それぞれの対象者への就職サポート活動を行い、企業から提供されるインターンシッププログラムの情報発信の中心としてのネットワークを深めていくことが重要と思われる。また、同窓会ネットワーク、キャリアカウンセリングシステム及びキャリアリソースネットワークを通じて、社会の求めるインターンシップへの要望を掴み、多様化した情報発信オンラインシステムの統合と開発、4つの組織（個人、企業、同窓会、大学）との連携した情報の共有化が今後必要になるとと思われる。

キーワード 同窓会ネットワーク、キャリアカウンセリングシステム、キャリアリソースネットワーク、オンラインシステムの統合と開発  
Alumni Network, Career Counseling System, Career Resource Network, Integration and Development of Online system

- |                                   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1. はじめに                           | 3. 1 現状におけるインターンシッププログラムの共通傾向 |
| 1. 1 研究の背景と目的                     | 3. 2 キャリアサービスプログラムとの関わりと方向性   |
| 2. 大学インターンシッププログラムの取り組み事例         | 3. 3 インターンシッププログラムと今後の課題      |
| 2. 1 コロンビア大学(Columbia University) | 3. 4 まとめ                      |
| 2. 2 ニューヨーク大学(NYU)                |                               |
| 2. 3 ペイス大学(Pace University)       |                               |
| 3. 考察                             | 参考文献                          |

## 1. はじめに

### 1.1 研究の背景と目的

米国大学において、キャリアサービスプログラム<sup>注1)</sup>同様、インターンシッププログラムについての新しい取り組みが各大学で行われている。本研究では、その中で特に在校生から卒業生及び社会人受講生<sup>注2)</sup>へ向けての広い対象範囲での就職サポート活動を含めたインターンシッププログラムの取り組みについて注目をしたい。

こうした動きの背景として、米国大学における経営上の理由によるキャリアサービスプログラムの再開発とWeb環境の発達による理由があげられる。米国大学においては1980年代、日本より早く、18歳年齢人口のピークを迎え、全米の大学が経営上の理由で新たな教育プログラム開発を行っていた時期があった。その当時（1980年代後半）、キャリアサービスプログラムについて現状調査を依頼された経験から、その後、20年以上の月日が過ぎ、社会人受講生確保により大学経営に成功した大学においては、経営上の理由で行った教育プログラムの開発が、キャリアサービスプログラムの新たな発展につながった。また、同時に主に在校生向けに開発されていたインターンシッププログラムについてもキャリアサービスプログラムとの連携により、在校生から卒業生及び社会人受講生へ対象範囲を広げた。現在、インターンシッププログラムの情報提供の場として新たなサービス向上への改革が行われている。

1980年代の米国大学において就職活動の中核となっていたインターンシッププログラムは、各大学独自の方法で進められ、広く利用されてきた。1980年代当時は、Web環境もな

く、日本の大学の職業指導室にあたるキャリアサービスセンターは、企業から依頼されたインターンシップ募集情報を学生へ提供する役目を担っていた。場合によっては、大学を面接会場として企業に提供することもあったが、基本的には、学生が直接、キャリアサービスセンターへ足を運び、募集情報を確認し、面接（interview）の申し込み、履歴書（resume）送付、手続、指定の場所での面接へ出向き、条件（期間、給与の有無、待遇等）の交渉までを行っていた。つまり、キャリアサービスセンターからの情報提供後の企業実習までを学生と企業間で行っていた。20年以上経った現在、インターネットの発達及びWeb環境の整備により、システムはより発展し、情報の提供も多量かつ複雑になった。各大学での試行錯誤の段階でもあるが、現状は、在校生以外の卒業生、社会人受講生をターゲットとしたインターンシッププログラムへと対象範囲を広げ、Web上でのシステムもすでに構築され利用されている。

結果的にインターンシッププログラムは、キャリアサービスプログラムの開発との連携により、特徴ある取り組みが行われている現状がある。ゆえに、現状を把握し、今後の方向性、あり方を整理する意義は大きい。

ここでは、ニューヨークという大都會でのロケーションにあり、かつ、ビジネス教育及び社会人向けのプログラムに定評がある大学をターゲットと考え、ニューヨークを代表する3つの大学、①アイビーリーグ（IVY League）大学<sup>注3)</sup>の1つであるコロンビア大学（Columbia University）<sup>注4)</sup>、②世界の経済の中心ウォール街に近く、多種多様のプログラムで評価の高い私立ニューヨーク大学

(New York University以下NYUと表記)<sup>注5)</sup>、③  
 ニューヨーク大学 (NYU) とほぼ同じエリアにあり、経営学大学院 (MBA) 教育では  
 ニューヨーク大学 (NYU) と並び代表的存在で定評のあるペイス大学 (Pace University)<sup>注6)</sup>  
 について、学術的研究分析、文献、資料解析  
 等による事例研究を行う。

## 2. 大学インターンシッププログラムの 取り組み事例

### 2. 1 コロンビア大学 (Columbia University)<sup>注4)</sup>

コロンビア大学のメインキャンパスは、ニ  
 ユーヨーク市マンハッタン地区の北端、アッ  
 パーウェストにあり、アイビーリーグ (IVY  
 League) 大学<sup>注3)</sup>の中でも、毎年全米大学ラ  
 ンキングベスト10位に名前を連ねる優秀大学  
 の1つである。コロンビア大学は、組織とし  
 て大学4校と大学院14校で構成された総合大  
 学である。

コロンビア大学の就職活動 (Job Hunting)  
 の情報の発信基地になっているコロンビア大  
 学キャリア教育センター (Columbia  
 University Center for Career Education 以下  
 OCEと表記) が中心となり、インターンシ  
 ップ先の探し方、インターンシップまでの準  
 備教育、給与 (無償、奨学金つき、有償など)、  
 期間 (1年間の年俸契約、2週間からの短期  
 時給制など)、多種多様のインターンシップ  
 プログラムへの情報の提供をし、相談及びカ  
 ウンセリングまで行っている。コロンビア大  
 学キャリア教育センター (OCE) は、基本  
 的には、教育プログラムの開発を行っている  
 キャリアサービスプログラムと連動して、イ  
 ンターンシッププログラムへの情報提供を行

っている。

その他にも新しい試みとして、コロンビア  
 大学コミュニティ (Columbia Communities  
 In Action以下CCIAと表記) によるインター  
 ンシッププログラムシステム (Internship  
 Program system) の開発が行われている。コ  
 ロンビア大学キャリア教育センター (COE)、  
 学生間のピアサポートなど大学全体の学生活  
 動や組織づくりをサポートするコロンビア学  
 生アドバイス活動組織 (Office of Student  
 Group Advising, 以下OSGAと表記)、コロン  
 ビア大学コミュニティ (CCIA) との連携で、  
 インターンシッププログラムを総合的にサポ  
 ートするシステムを構築している。

上記の就職活動につながるインターンシ  
 ッププログラムとは別に、通常の大学授業 (単  
 位互換制度) として取り扱われる海外研修プ  
 ログラム (Abroad Program) の運営の中心  
 になっているコロンビア大学グローバルプロ  
 グラム (Columbia University Global  
 Programs) でも、海外研修プログラム  
 (Abroad Program) と同様に海外でのインター  
 ンシッププログラムを提供している。期間は  
 基本的に3ヶ月から1年以上の長期のもの  
 まであり、派遣国、企業もさまざまである。  
 多種多様の海外でのインターンシッププロ  
 グラムを提供している。実施時期は主に夏休み  
 期間のプログラムが多い。旅費、滞在費は実  
 費負担で現地でのオリエンテーションと1週  
 間の事前研修が含まれる。インターンシ  
 ップ実習期間は、基本的に無償だが、コロン  
 ビア大学の授業単位として最大10単位まで認定さ  
 れる。

大学学位取得目的とは別に、一般の社会人  
 受講生のための講座を提供している、コロン

ピア大学生涯教育機関 (continuing Educational School)<sup>注7)</sup> においては、アドバイスサポートシステム (Advising and Support system) を構築し、在校生だけでなく、卒業生及び社会人受講生に対しての就職活動サポートの一環としてインターンシップや面接までの準備のサポートを無償で行っている。ただし、インターンシップ斡旋までのステップとして、まず、受講生からヒヤリングを行い、場合によっては、個人のニーズに合わせて能力向上のためのプログラムを開発し、新しい講座を提供したり、既存のキャリアサービスプログラムシステムを利用し、専門家によるオンラインでのカウンセリング、履歴書の書き方指導等を事前に行っている。

キャリアサービスプログラムの内容については、コロンビア大学内の各大学での独自の取り組みが行われているが、その開発の中心に教育学部があり、キャリアサービスプログラムへ向けての新たな試みを実施している。

その他コロンビア大学キャリア教育センター (OCE) 以外に、コロンビア大学内の各学校<sup>注4)</sup> が、それぞれ指定された専門分野での独自の情報提供を行っている。

インターンシッププログラムについては、基本的には大学院での専門性の高い分野の提供が活発に行われている。特に積極的に行っている大学院の組織として、キャリアサービスプログラム同様、法学部大学院 (Low School)、経営学部大学大学院 (Business School)、教育学部大学院 (Teachers College, 以下TCと表記)、環境学部、政治学部、コロンビア大学の中の女子大学バーナードカレッジ (Barnard College)<sup>注8)</sup> の取り組みが挙げられる。

コロンビア大学法学部 (Law School) では、ヒューマンライツインターンシッププログラム (Human Rights Internship Program and Other Summer Fellowships, 以下HRIPと表記) という名称で22年間アメリカ国内だけでなく、海外55カ国へインターンシッププログラムの場を提供し続けている。

経営学部 (Business School) においては、企業の人材確保の場として、伝統的に企業とのパイプが強く、有名企業からのインターンシッププログラムの場が提供されている。

環境学部については、他大学との協働研究にかかわる特殊な研究プログラムを用意している。例えば、NASA主催の宇宙の土壌調査をニューハンプシャー大学 (University of New Hampshire) 研究所を実習場所とし、研究職での実習体験をする。条件としては、2名の推薦状、成績証明書、エッセイA4版で2枚、研究成果物を提出条件とし、書類審査が行われる。

政治学部の中にある、経済調査機関 (Institute for Social and Economic Research and Policy, 以下ISERPと表記) が、今後コロンビア大学生になりうる可能性を持つ、高校生向けに経済に関する調査等の実習を中心にしたインターンシッププログラム (High School Internship Program) を主催している。毎年、夏休みを中心に2週間単位で、高校生がコロンビア大学に通学し、研究室での仕事を体験する。

コロンビア大学の唯一の女子大学であるバーナードカレッジ (Barnard College)<sup>注8)</sup> は独自のシステムでインターンシッププログラムを実施している。学生がインターンシップに入る前の大学1年生の時に事前教育プログ

ラムを能力に応じて、受講させ、その後、インターンシップ先へ送っている。期間、勤務時間数については、選択肢があり、8時間から15時間の範囲内で場合によっては午前中だけといったアルバイト（Part Time Job）感覚の短期期間のものも選択できる。本学で行っているような授業の中に事前事後教育を取り入れたインターンシッププログラムが行われている。

Webサイトとして利用されているシステムとして、定期的な情報を提供している「コロンビアニュース」（Columbia News）と「ライブラリーニュース」（Library News）がある。

コロンビア大学生がよく利用する図書館からWeb上での定期的な情報「ライブラリーニュース」（Library News）が提供され、インターンシッププログラムの応募の仕方、条件、面接の日程、学内での面接場所等の情報が流されている。主に図書館での実習が中心だが、有償となっている。記載されていた情報の例は以下のとおり。「12名のインターンシップ募集をします。仕事内容は図書館での記事の整理です。期間は6月から次年度の5月まで、時給20ドルの報酬、専門知識試験及び面接あり」（英語原文を翻訳したものを記載）。

コロンビア大学インターンシップ募集情報専用のサイト「コロンビアニュース」（Columbia News）の一例として「アメリカ政府機関での所長秘書業務、男女問わず、大学2年間在籍し、ワシントンDCの政府機関宿泊施設に滞在できる学生。有償。詳細は別途連絡。実習時期は、夏休み期間、相談に応じる」など、ニューヨークエリア以外の遠隔地での募集も記載されている。

特殊なケースだが、新しい試みとして、ニューヨーク大学のインターンシッププログラムをコロンビア大学のホームページで紹介している。ニューヨーク大学内にあるブロンフマンセンターというユダヤ系大学生の支援をするための協会（Bronfman Center for Jewish Student life at NYU）が主催し、大学1年生から4年生までを対象にし、工学系、文科系、科学系、社会科学系の専門を学んでいる学生でかつ、ニューヨークでのインターンシップを希望している学生を対象としている。また、コロンビア大学内の大学リーダーシップインターンシッププログラム（Collegiate Leadership Internship Program以下CLPと表記）が中心となり運営サポートを実施している。募集内容は、ニューヨークエリアの夏の期間に2週間単位で最長3ヶ月間、給与が支給され、給与額は専門分野で変わる。2週間単位で募集があり、すべて無償ではなく、有償で実施される。

そのほか、特殊な興味深いインターンシップ先として、ワシントンDCにあるアメリカ警備部署（The U.S. Department of Homeland Security 以下DHSと表記）システム管理部門（HS-STEM）での夏休み期間のインターンシッププログラム（Summer Internship Program）がある。週500ドルの有償で、2週間単位で最長10週間の条件の募集である。

## 2.2 ニューヨーク大学（NYU）<sup>注5)</sup>

ニューヨーク大学はニューヨーク市マンハッタン地区南部のダウントウンにあり、ソーホー、グリニッジビルレッジという繁華街エリア、ウォール街からも近く、1980年代においてもビジネス教育、生涯教育プログラムに定

評があった。

ニューヨーク大学は同じ敷地内に施設があるコロンビア大学とは違い、ワシントンスクエアと呼ばれる広場を囲むように各施設が点在する都市型大学で、大学7校で構成された総合大学である。学校ごとに専門資格及び大学院学位プログラムを核とし、社会人学生が通学しやすいロケーションとプログラムを提供している。

キャリアサービスプログラムについては、一般社会人向け公開講座として、生涯教育プログラムの母体となる生涯教育学校 (School of Continuing and Professional Studies, 以下SCPSと表記) の組織が中心に役割を果たしている。インターンシッププログラムについては、大学内にあるワッシャーマンセンター (The Wasserman Center for Career Development) が中心となり、社会人向けのインターンシップ及び就職の斡旋を行っている。

ニューヨーク大学は企業向けキャリアサービスプログラムを提供しており、他大学に比べて、企業とのつながりが強い。インターンシッププログラムの情報提供については、ホームページのWeb上からもアクセスできるシステムだが、画面上、ニューヨーク大学が提携している企業シンボルのアイコンをレイアウトした専用画面があり、希望の企業のアイコンをクリックするだけで、直接企業のインターンシップ申し込みの専用画面に簡単にアクセスできる。Web上の企業へのインターンシップ情報を優先的に提供されるシステムを構築している。アイコンとして画面に設置されている企業は、ニューヨークを代表する知名度の高い企業が多い。

例えば、デパートのメイシーズ (Macy's) アメリカ銀行 (Bank of America)、証券会社ゴールドマンサックス (Goldman Sacks)、シティバンク (City Bank) など16社程の市内の通勤圏内での主な金融会社や証券会社のアイコンが設置されている。常時、企業別に申し込み画面に簡単にアクセス出来るシステムになっている。

また、コロンビア大学など他校ホームページの画面からニューヨーク大学の生涯教育学校 (Continuing Educational School) <sup>(注7)</sup> のホームページへリンクできるように提携をしており、ニューヨーク大学から他大学へ求人情報やインターンシップ先の情報を流している。代表的なものとして、コロンビア大学の事例で記述したブロンフマンセンターのプログラムがある。ニューヨーク大学からの情報を提供することにより、大学間で就職活動サポートに関して、競合するのではなく、協力しあうシステムになっている。

そのほかにも、生涯教育プログラムの母体となる生涯教育学校 (School of Continuing and Professional Studies, 以下SCPSと表記) の組織が中心的役割をはたし、人材開発 (Human Resources) の部門で、インターンシップの内容及び企業の募集条件等を含めた検索システムを構築し、よりきめ細かい、多種多様な情報を流せるようにしている。この検索システムからキャリアサービスプログラムへリンクするシステムもあり、単にインターンシッププログラムの斡旋情報だけでなく、検索結果により、必要に応じて、インターンシップに入る前の準備教育、また、キャリアアップのための講座、キャリアカウンセリングシステムへの紹介や就職のための求人

登録システムへもつながる総合的なサポートネットワークになっている。

ニューヨーク大学 (NYU) のシステムは人材開発部 (HR) へアクセスすれば、そこから、キャリアアップのための講座の開発提供を行っているキャリアサービスプログラム、将来のキャリアに関するカウンセリングを行うキャリアカウンセリングシステム、求人情報を提供するキャリアリソースネットワーク、就職活動の一環であり、実習先情報を提供するインターンシッププログラムなどいろいろな情報欄へリンクし、すべての情報に簡単にたどり着くことが出来る便利なシステムになっている。

### 2. 3 ペイス大学 (Pace University)<sup>注6)</sup>

ペイス大学 (Pace University) は、ニューヨーク市内に2つのキャンパスを持つ総合大学である。マンハッタン内にあるニューヨークキャンパス (New York City Campus) は、9分野の専門別に大学、大学院で構成された総合大学である。ニューヨーク市北部にあるもう一つのホワイトプレインキャンパス (College of White Plains) は、住宅街にあり、経営学を中心とした大学である。ニューヨーク大学 (NYU) 同様、ウォール街に近く、経営学においては、ニューヨーク大学に並び定評がある大学である。

大学規模としては、他の2つの大学と比べると、学生数からもやや小さめだが、キャリアサービスプログラム同様、インターンシッププログラムについては、ペイス大学キャリアサービスプログラム (Pace University Career Service Program, 以下PCSPと表記) が中心になり、さまざまな機関と提携し、就

職するまでの学生へのサービスの一環として情報を提供している。

同様に、他大学と違う点は、各専門部署に別れて、それぞれが独自のインターンシップの情報提供を行っている。インターンシップ先を大きく分けると一般教養分野 (心理学、教育学、社会学等)、一般企業 (専門は問わず)、特殊知識分野 (法学、医学、医療関係、工学等)、卒業生向けキャリア別、大学が所有している出版社が挙げられる。

担当部署別に例を挙げると、心理学系や教育学系の学生は、カウンセリングセンター (Counseling Center) が中心になって、国内外のそれぞれの専門性にあった学外でのインターンシップの仕事を紹介する。法学系学生は法学部内の能力開発部 (Human Rights in Action Summer Internship Program以下HRIAと表記) が中心に、夏休み期間での国内と海外でのインターンシッププログラムを実施している。海外については、1994年より開始し、オーストラリア、韓国、日本、中国、インド、アルゼンチン、フランス、ロシア、ポルトガル、イタリアなど10カ国の提携弁護士事務所へ送っている。

条件、期間についてはいろいろだが、基本は主に夏休み期間から始まり、4週間以上1年未満が多い。能力条件はその専門性によるが、例として、海外の法律事務所でのインターンシップの募集条件については、使用言語については英語のみ。専門分野での法律知識と書類審査が行われる。法律関係は、やはり、夏休み中の6月から7月の間の8週間 (320時間)、無報酬で生活費は実費自己負担となる。勤務時間は基本的には、オフィスアワー9時～5時のフルタイム契約。アメリカ法律

協会より大学の修得単位として6単位認定される。

その他には、ラテンアメリカやカリブ海エリアでのインターンシッププログラム（Latin American／Caribbean Internship study Program以下LASPと表記）がある。全体の在学生数の中でラテン系学生の比率も高く、母国語を使ったこのプログラムを提供している。

このプログラムは、1997年より始まり、派遣先はアルゼンチン、ブラジル、メキシコ、コロンビア等の海外とニューヨーク市内のこの活動に協賛しているパートナーシップの企業が選択できる。

ペイス大学は小規模ながら、学内でのインターンシップ及びアルバイト等の仕事の斡旋情報量が多く、その情報を分類、リスト化し、学内での「働く場」を数多く提供している。

### 3. 考察

#### 3. 1 現状におけるインターンシッププログラムの共通傾向

3つの大学の事例結果だけを見ると、インターンシッププログラムにおける共通傾向が見られる。

1980年代に比べ、各大学でのWeb上の情報発信環境が整い、さまざまな形態での情報提供を行っている。ニューヨークのような競争の厳しい都会の大学において、大学が企業のニーズに応える人材提供をするためには、学生により多くの情報を提供することが必要となった。大学からの情報発信場所をキャリアサービスセンターの1箇所ではなく、大学内の各専門別の複数の部署からの情報により複雑な情報提供を行っている傾向がある。

また、キャリアサービスプログラムと連携し、専門性に合わせた各部署の独自の登録制度を構築し、より専門性を生かせる企業とのマッチングを行っている。同時に、ただ、情報提供するだけでなく、就職活動向けの事前研修プログラムや就職活動のアドバイスを行うカウンセリングシステムを提供し、よりきめ細かな個人のニーズに応えるためのキャリアサービスプログラムと連携強化する傾向がある。

1980年代のキャリアサービスセンターは、日本の大学の就職指導室のような専門部署として、インターンシップ募集企業情報の提供を行っていた。個人は、そこに集まった情報を元に、企業とコンタクトを取り、条件の確認、インタビュー（面接）を受け、能力や希望にあったインターンシップ企業を各自で見つける方法が中心だった。期間や時期もサマーインターンシップ（Summer Internship）といった、主に夏休み中に実施されるプログラムに参加し、インターンシップ先決定についても個人的な判断によるものだった。

その後、多様化した個人のニーズや企業のニーズに応えるため、そこへインターネットの発達によりWeb環境整備も加わり、さまざまな時期、期間、形態のインターンシッププログラム情報提供へと変わった。また、同じ大学内でも専門性に依りて、各部署で独自の改革を進めていたため、情報量も発信場所も多種多様になった。

従来と異なる最大の成果は、①インターンシッププログラムへのエントリーが簡単になったこと、②条件の検索がしやすくなったこと、③情報量が多くなったことで、より自分の専門性に近いインターンシッププログラム



をみつけやすくなったという傾向がある。

また、1980年代に行われていたインターンシッププログラムでは、就職活動に直結していた傾向が強かったが、現在は企業の総合的な人材育成という観点の体験学習的なインターンシッププログラムも多く見られる傾向がある。内容について共通傾向を説明すると、以下の4つが挙げられる。

①従来どおりの、個人の希望職種、能力、学位、資格等に合わせた、将来の就職活動につながるプログラム。②キャリアカウンセリングプログラム、大学と企業との連携での専門性をより高めるための研修的プログラム。③国際化へ向けての海外でのプログラム。④人種、文化別に特定の条件や範囲を限定した特殊なプログラム。現状では、在校生においては、①の利用が中心になっている。

### 3. 2 キャリアサービスプログラムとの関わりと方向性

今回の事例研究を行った大学におけるインターンシッププログラムは、単純に在校生の卒業後の出口の部分でのキャリアを考えるだけでなく、将来的な可能性も含め、インターンシッププログラム対象者を卒業生及び社会人受講生へと範囲を広げ、キャリアサービスプログラムとの連携により新しい学生確保のための特徴ある取り組みとして大きな役割を担っている。

今回は、ニューヨークという世界経済の中心となる都心に位置し、若干、大学の規模に差はあるが、同じ都市型大学ということもあり、上記の点については、インターンシッププログラムと連携している在校生向けのキャリアサービスプログラムへの取り組みが似て

いる。

各大学のキャリアサービスプログラムの取り組みとして、1980年代は在校生及び卒業生を対象とした従来のビジネススキルアップのための資格志向のプログラムを中心に実施していた。20年以上経った現在では、対象範囲を広げ、在校生及び卒業生だけでなく、社会人受講生向けプログラムを積極的に実施している。プログラムの内容については同じ方向性があり、具体的には以下の4つが挙げられる。

①キャリアコンサルティングシステムの構築 ②オンラインサービスの充実化 ③キャリアアップ（プロモーション、転職）へ向けての求人情報ネットワークシステムの構築 ④同窓会、大学と企業間の組織的ネットワークの構築である。

また、インターンシッププログラムについても、同様に従来の在校生だけでなく、卒業生や社会人受講生への情報提供等の対応ができるシステムがすでに構築されている。これにより、在校生の卒業後もサービスを受けられる体制になっている。

その反面、在学生へのシステムについては各大学に同じ方向性があり、以下の4つが挙げられる。①キャリアサービスセンターから、在校生向けと卒業生及び社会人受講生向けのプログラムと区別し、情報提供を行っている。②キャリアサービスセンターでの登録及び情報提供とは別に各部署での専門性に合わせた独自の登録システムと情報提供を行っている。③個人のニーズに合わせた研修プログラム及びカウンセリングの提供を行っている。④キャリアサービスプログラムとの連携で、インターンシッププログラムとリンクした求

人情報システム、同窓会、大学、企業間での組織的ネットワークの構築を進めている。

### 3. 3 インターンシッププログラムと今後の課題

大学が、インターンシッププログラムを1980年代においては、就職活動と捉え、20年以上経った現在においては、将来のキャリアアップへの基盤の構築と捉え、キャリアサービスプログラムとの連携を強化していく意義は大きい。

社会のニーズに合わせた新たなインターンシッププログラム開発は、より多くの社会人受講生確保のための特徴ある取り組みとして大きな役割を担っていると捉えた。インターンシッププログラムが、就職に対する単純な情報提供の場所ではなく、個人の能力向上のためのインターンシッププログラムの開発が、大学での専門能力以外の就職に役立つ能力を向上させると捉えた。

そのためには、個人のニーズを知るための情報を収集する共通のシステムが必要となる。

現状では、3つの大学共に、学生への情報提供の場所が複数あり、提供する情報量も選択肢も多く、システムの共有化がされにくい。また、求人に対する学生の情報を収集する総合的な登録システムはあるが、インターンシッププログラムへの登録については、キャリアサービスプログラムでの登録とは別にその他の各部署で専門性にあつた独自の登録システムを構築しているため、入力項目も多種多様で、複数回、登録しなければならない状況がある。

キャリアサービスセンターで一括して、複

数の登録システムを管理できれば、在校生が将来卒業した後もキャリアサービスプログラムへの登録と繋げられるシステムが構築できる。

在校生にとっては、インターンシッププログラムが、就職へつながる活動の場と捉えている場合、単純なマッチングのための情報収集の場にしかない。在学生へ大学での専門教育以外のキャリアアップのための講座に参加させるには、長いスタンスでのキャリア意識を構築させなければ難しい部分があるかもしれない。

在校生へのインターンシップ事前事後教育といった人材開発教育は、在校生のニーズにあわせて開発するだけでなく、将来のキャリアアップへ向けて意識づけの場になる。そこからインターンシッププログラムへつながる一連の流れが新たなインターンシッププログラムとして開発されることになるだろう。

今後の課題として以下の3つが挙げられる。①現状の登録システムの把握と卒業後に繋げられるインターンシッププログラムへの登録共通システムの開発ができるか。②従来の就職のための活動から意識改革させ、卒業生及び社会人受講生向けのキャリアアップのための研修プログラムの一環としてインターンシップをどう受講させることができるか③今後、従来の個別カウンセリングシステムとインターンシップとの連携と充実化をどう図るか。

インターンシッププログラムは、在校生にとっては、単なる卒業までの一過性の就職活動に過ぎない。しかし、実は将来のキャリアをどう捉えるかといった長いスタンスで考えると、キャリアアップの構想の基盤となる。

そのためには、卒業生及び社会人受講生のためのインターンシッププログラムの開発は、在校生の将来においても必要となるシステムであると捉えた。今後は各部署で実施されている独自のシステムが相互リンクし、より単純化統一されたシステムの開発とキャリアプログラムとインターンシッププログラムとの情報の共有化が強化され、大学が多くの有効な情報を提供する側として、より強く連携したシステムとして今後も長期的に発展していく必要があるだろう。

### 3. 4 まとめ

今回は大学インターンシッププログラムの現状について、ニューヨークエリアの特にマンハッタン地区における代表的な大学3校について検証してきた。

総括してみると、キャリアサービスプログラム同様、在校生と卒業生及びそれ以外の社会人受講生への取り組みにはシステムの差があり、キャリアサービスプログラムと大学内の複数の専門部署からの情報提供と登録システムが存在していた。そのため、多くの情報が提供されているが、別々の多くの場所から情報を取得できるため、複雑である。これは、従来の就職活動としてのインターンシッププログラムという捉え方と、キャリアアップのプログラムとしての捉え方の両方が混在することが影響している。

この状況によって、Web環境の発達により情報の獲得が容易になったが、それと共に情報量も増大し、インターンシップ先を絞るには難しい傾向がある。そのためには、多くの情報に対する、絞り込みのための在校生向けのカウンセリングシステムの強化が必要と思われる。

れる。

これからのインターンシッププログラムのあり方として、卒業後と数年後の長いスタンスでの就職をどう捉えるか、個人を企業の中でどう生かせるかという個人レベルの対応と個人のニーズに合わせたインターンシップ情報提供とプログラム開発、そしてその個人が関わることになる企業と大学のネットワークを深めていくことが重要と思われる。

また、在学生、卒業生、その他の社会人受講生とそれぞれの専門の垣根を取った、共通のシステムの構築とその他の同窓会及び企業ネットワーク等の機関とのネットワークを通じて各大学でのインターンシップ先の確保の強化、情報提供の場としてのわかりやすい統合されたキャリアネットワークの開発が必要となってくる。

今後もニューヨークを中心とした都市型大学、特に私立大学の事例研究及びキャリアサービスプログラムや学生間のピアサポート(チュータリングシステム、パートナーシッププログラム、同窓会ネットワークシステム)との関わり方について研究を進めていきたい。

### 参考文献

- 1) Richard Boyatzis, Annie McKee, and Daniel Goleman, "Reawakening Your Passion for Work", Harvard Business Review, Reprint R0204G, Harvard Business School Press, April 2002, P22
- 2) Randy Komisar, "Goodbye Career, Hello Success", Harvard Business Review, Reprint R00207, Harvard Business School Press, March 2000, P25

- 3 ) Laurence J. Stybel and Maryanne Peabody, "The Right Way to Be Fired", Harvard Business Review, Reprint R0107F, Harvard Business School Press, July-August 2001, P24
- 4 ) Peter F. Drucker, "Managing Oneself", Harvard Business Review, Reprint 99204, Harvard Business School Press, March-April 1999, P25
- 5 ) Harry Levinson, "A Second Career : The Possible Dream", Harvard Business Review, Reprint 83307, Harvard Business School Press, May-June 1983, P21
- 6 ) Vivien Corwin, Thomas B. Laurence, and Peter J. Frost, "Five Strategies of Successful Part-Time Work", Harvard Business Review, Reprint R0107J, Harvard Business School Press, July-August 2001, P20
- 7 ) John J. Babarro and John P. Kotter, "Managing Your Boss", Harvard Business Review, Reprint 93306, Harvard Business School Press, May-June 1993, P23
- 8 ) Ronald A. Heifetz and Marty Linsky, "A Survival Guide for Leaders", Harvard Business Review, Reprint R0206C, Harvard Business School Press, June 2002, P25
- 9 ) Harry Levinson, Harvard Business Review "On Being a Middle-Aged Manager", Harvard Business School Press, July-August 1969
- 10) Harry Levinson, "On Being a Middle-Aged Manager", Harvard Business Review, Harvard Business School Press, July-August 1969, P57
- 11) Erik H. Erikson, "Childhood and Society, 2nd Ed.", New York : Norton, 1963
- 12) Daniel Levinson, Charlotte N. Darrow, Edward B. Klein, Maria H. Levinson, and Braxton McKee, "The Seasons of a Man's Life", New York : Alfred A. Knopf, 1978
- 13) Harry Levinson, "Don't Call It 'Early Retirement'", Harvard Business Review interview with Wheelock Whitney and William G Damroth, Harvard Business School Press, September-October 1975, P103
- 14) Harry Levinson, "Easing the Pain of Personal Loss", Harvard Business Review, Harvard Business School Press, September - October 1972, P80
- 15) "Academic Internship Program : Sponsor's Handbook", West Charlotte High School, Academic Internship Program Project Report. October 1987
- 16) 渡辺三枝子, オーガニゼーショナル・カウンセリング序説, ナカニシヤ出版, 2005
- 17) 中央職業能力開発協会, 厚生労働省委託キャリア・コンサルティング導入・展開事例に係る調査研究, 2005
- 18) 花田光世, 人材育成型成果主義の提言, 人材教育, 2005, 6月号 P12-22
- 19) 財団法人社会経済生産性本部メンタル・ヘルス研究所, 産業人メンタルヘルス白書, 2004
- 20) 佐久間賢, 上司・部下関係の再構築を, 日本経済新聞, 2004, 6月10日朝刊
- 21) 高橋伸夫, 虚妄の成果主義, 日経BP社, 2004
- 22) 高橋俊介, キャリア論, 東洋経済新報,

- 2003
- 23) 金井壽宏, 働く人のためのキャリアデザイン, PHP研究所, 2002
- 24) 今野浩一郎, 佐藤博樹, 人事管理入門, 日本経済新聞社, 2002
- 25) 高橋俊介, 成果主義とキャリア自律の補完関係, 組織科学, Vol.35, 2002, P32-42
- 26) 学校法人産能大学HRDシステム開発センター, 人的資源開発における戦略的投資とその評価・効果測定に関する基礎調査, 1999
- 27) 谷内篤博, 大学生の職業意識とキャリア教育, 勁草書房, 2005
- 28) Columbia University Bulletin 1990-2008
- 29) New York University Bulletin 1990-2008
- 30) Pace University Bulletin, 1990-2008
- 31) Columbia University, Career Education, Internship  
<http://www.columbia.edu/findajob/internship/>, 2008/7/3
- 32) Columbia University, Global Programs, International Internship Program,  
<http://www.columbia.edu/cu/ogp/>, 2008/7/3
- 33) Low School, Columbia University, Human Rights Internship Program,  
[http://www.low.columbia.edu/jd\\_applicants/curriculum/humanrights/hr\\_internship](http://www.low.columbia.edu/jd_applicants/curriculum/humanrights/hr_internship), 2008/7/3
- 34) Columbia University, Columbia University Libraries, Library News, Internship Program,  
<http://www.columbia.edu/cu/lweb/individ/spocol/internships>, 2008/7/3
- 35) Barnard College, Columbia University, Summer Internships Opportunities,  
<http://www.barnard.edu/hssp/internshiptc.columbia.edu/careerservices/alumni/>, 2008/12/23
- 36) New York University, Wasserman Center for Career Development  
<http://www.nyu.edu/careerdevelopment>, 2008/6/21
- 37) New York University, Human resources, Employment  
<http://www.nyu.edu/hr/Employment>, 2008/6/23
- 38) New York University, Human Resources, MATCH “Automated Job Application System,  
<http://www.sjobs.brassring.com>, 2008/7/05
- 39) New York University, Internship Information,  
[http://www.steinhardt.nyu.edu/mcc.olde/internships/finding\\_an\\_internship](http://www.steinhardt.nyu.edu/mcc.olde/internships/finding_an_internship), 2008/7/05
- 40) New York University, Abroad Programs for Internship,  
[http://www.steinhardt.nyu.edu/mcc/study\\_abroad/](http://www.steinhardt.nyu.edu/mcc/study_abroad/), 2008/7/05
- 41) New York University, School of Continuing and Professional Studies,  
<http://www.scps.nyu.edu/>, 2008/7/05
- 42) New York University, Career Development  
<http://www.nyu.edu/careerdevelopment/students/events>, 2008/12/23
- 43) New York University, Office of Career Management,  
<http://www.scps.nyu.edu/areas-of->

- study/office-career-management/,  
2008/12/23
- 44) New York University, Alumni Network  
<http://alumni.nyu.edu/groups/>,  
2008/12/23
- 45) Pace University  
<http://www.pace.edu>, 2008/9/23
- 46) Pace University, Low School, Human Rights in Action (HRIA) Summer Internship Programs,  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=27040](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=27040), 2008/9/23
- 47) Pace University, Low School, International Commercial Law Internship Abroad Program,  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=27038](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=27038), 2008/9/23
- 48) Pace University, Undergraduate Psychology Summer Internship Programs,  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=7939](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=7939), 2008/9/23
- 49) Pace University, School of Education, Partnerships (Internship Programs),  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=6017](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=6017), 2008/9/23
- 50) Pace University, Human Resources,  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=27099](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=27099), 2008/9/23
- 51) Pace University, Latin American/Caribbean Internship Program  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=9705](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=9705), 2008/9/23
- 52) Pace University, Publishing Internships for Alumni and Current Student,  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=3738](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=3738), 2008/9/23
- 53) Pace University, Counseling Services, Training Opportunities in New York,  
[http://www.pace.edu/page.cfm?doc\\_id=5119](http://www.pace.edu/page.cfm?doc_id=5119), 2008/9/23
- 注1)  
キャリアサービスプログラムとは、職業適性能力向上を目的とした企業及び社会人向け講座等を提供する教育システム
- 注2)  
社会人受講生とは、特に学位修得を目的とするのではなく、キャリアアップや伸ばしたい能力に応じたコースを大学で、生涯教育プログラム (Continuing Educational School) において受講または聴講する学生を意味する。
- 注3)  
IVY League Universitiesはアメリカ北東部にある八つの私立大学の総称。いずれも長い歴史と伝統、大学の名門という誇りを持つ大学。八つの大学と創立年は以下のとおり。  
①Brown University (1764),  
②Columbia University (1754),  
③Cornell University (1865),  
④Dartmouth University (1769),  
⑤Harvard University (1636),  
⑥Princeton University (1746),  
⑦University of Pennsylvania (1740),  
⑧Yale University (1701)
- 注4)  
Columbia Universityは18校のコロンビア大

学の総称。①大学4校：Undergraduate Studies (Columbia College, Barnard for women's College, The School of Engineering and Applied Science, The General Studies), ②大学院14校：Graduate School (Manhattan Campus：The School of Architecture, Planning and Preservation, Graduate School of Arts and Sciences, School of Law, Graduate School of Business, School of international and Public Affairs, Graduate School of Journalism, School of the Arts, School of Library Service, Teachers College, School of Social Work, The Columbia Presbyterian Medical Center：Thee University's Division of Health Sciences includes The college of physicians and Surgeons, The School of Dental and Oral Surgery, the School of Nursing, the School of Public Health)

注5)

NYUはNew York Universityの略称で、7校のニューヨーク大学の総称である。①大学7校：Undergraduate (the College of Arts and Sciences, School of Education, Health, Nursing and Arts Professions, Tisch School of the Arts, School of Continuing Education School of Social Work, College of Business and Public Administration, Gallatin Division)。各校ごとに専門資格及び大学院学位プログラムを実施している。

注6)

Pace Universityはニューヨーク市内に2つのキャンパスを持つ総合大学。マンハッタン内にあるNew York City Campusは、①Dyson

College of Arts and Sciences ②Lubin School of Business Administration ③School of Education ④School of Computer Science and Information Systems ⑤Lubin Graduate School of Business ⑦Lienhard School of Nursing ⑧The School of Law ⑨The Division of Continuing Education and Evening Studiesの9分野の大学、大学院。ニューヨーク市北部にあるもう一つのキャンパスは、College of White Plains。

注7)

Continuing Educational Schoolは一般に日本では生涯教育プログラム、公開講座、オープンカレッジ等の名称で正規入学者以外の主に社会人聴講生向けに特別コースプログラムを提供する機関。

注8)

米国の比較的伝統的な総合大学では、創立当時、共学ではなく、男子専用の大学として開校し、その後、女子専用大学を開校した経緯があり、その名残として、女子大学が存在している大学が多い。コロンビア大学における、バーナードカレッジがそれにあたる。